

黒岩探訪

たんぼう

22

KUROIWA
くろいわ

黒岩小周辺の気候の特色 (冬の気温編2)

黒岩小学校周辺の特色ある気温について前号の続きです。気温の状況を確認するため、冬休み中に三日間、朝の気温を測って回りました。

吉田地区から富岡地区までほとんど同じ気温で推移します。しかし、**ある条件の朝**は、黒川地区のベイシア周辺で一度下がります。ここに続く黒岩地区周辺の気温状況のモデル図を下に示します。この図について説明します。

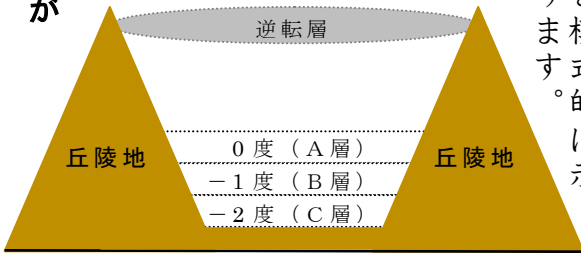
一 機足の谷津に降りる(図中X)と一度下がる。この温度の範囲は、図中のCの範囲を含む小野地区、福島地区、東富岡地区等広範囲になると思われる。

二 機足の集落域(図中Y)から下高尾辺りまで一度下がる。図中のBの範囲。

三 小学校周辺で東西に延びる図中のAの範囲で一度下がる。

本格的な調査に基づくものではありませんので、あくまで仮定ですが

ある条件の下では、小学校周辺は一度程下がるようです。富岡市街地より二度程下がるようです。宮内地区は、この気温状況になる朝は、風がなくよく晴れた冬の朝です。AやBの地域が周辺よりなぜ低気温になるかという「放射冷却現象」が顕著に表れるためと考えられます。「放射冷却現象」とは、地表の熱が夜間放射冷却現象として放射されることで、気温が下がります。盆地形状地は、地形の周りを丘陵や山に囲まれることで、冷気がたまりやすいため、盆地の上流側に冷気がたまりやすいため、その上流側に冷気がたまりやすいため、所では、冷気がたまりやすいため、すとなりのように、模式的に示す。また、放射冷却現象により、周辺より温度が高くなる。形成する煙が立ち上った煙が、横にたなびく現象が見られます。これは八時前後に解消され、気温差はなくなり、黒岩小周辺は、風が



盆地形状地の温度の模式図(Aを0度とした時)



放射冷却現象が顕著に起きた時の気温状況のモデル図(AはBより一度低く、BはCより一度低い)

なくよく晴れた冬の朝、周辺域より気温が下がることが特色です。